



## 自社一貫生産にこだわり、優れた射出成型技術で業界を牽引

株式会社ニシベケミカル 奈良県御所市

昭和 33 年の創業以来、磨き続けた独自のサンダル製造技術で、高品質な製品を世に送り出している株式会社ニシベケミカル。

同社の製品ラインナップは、主力製品の抗菌衛生サンダルをはじめ、女性向けレインブーツや、医療現場で使われるドクター／ナースサンダルなどで、いずれも高い品質に定評がある。

「優れた製品の開発を通じ、社会に必要とされるものを世に送り出したい」と語る西辺社長。ものづくりに地道に取り組む同社は、今後も確かな技術で人々に安心・快適な製品を提供し続けるに違いない。

### 会社概要



会社名：株式会社ニシベケミカル  
所在地：奈良県御所市元町 375  
電話：0745-62-2696  
FAX：0745-65-0565  
創業：1958（昭和 33）年  
設立：1982（昭和 57）年  
代表者：代表取締役 西辺 豊彦  
資本金：2,000 万円  
従業員：50 名  
事業内容：一体型の射出成型サンダル、女性向けレインブーツ、その他フットウェアの製造

### 建設業で貯めた資金で創業

呉服商の父のもとに生まれた西辺豊彦社長（76 歳）は、終戦間もない昭和 20 年代、「奈良県で第 1 号」（西辺社長）となる大型特殊免許を取得。ブルドーザーを駆る西辺社長は、貴重な人材として近畿各地の現場で引っ張りだことなり、月給は一般作業員の 10 倍にもなった。

しかし、建設重機オペレーターとして各地の現場を巡る日々を過ごすうち、西辺社長は、稼いだ資金を元手に新たな事業を興したいと考えるに至った。

ある日、東京でドイツ製の高周波ウェルダー（マイクロ波による加熱加工機械）の展示会が開催されることを聞きつけた西辺社長は、夜行列車に飛び乗り上京。最終日に滑り込み、出展されていた当時最新鋭の機械を「ドイツに持ち帰るのも大変だから」と先方から破格の安値で譲り受けた。こうして 1958（昭和 33）年、土地と 8 坪の工場を購入し、地元・御所市の地場産業であった靴部品製造業を個人で創業したのが同社の始まりである。

### ヒット製品の開発と射出成型サンダルへの注力

手に入れた機械で試行錯誤を繰り返すうち、わが国でも最初期の取組みとなる、塩ビ素材を発泡成型した靴底を開発。“羽のように軽い靴底”という意味を込めて名付けた「フェザーソール」は、人気を博し全国で飛ぶように売れた。

これが契機となって、自分の作ったものが世の中で必要とされる喜びを実感し、「ものづくりの欲」が出てきたという西辺社長。昭和 40 年代には新たに作成を始めた一体型の射出成型サンダルが大ヒット。この分野への注力が奏功し、現在に至るまで同社の主力製品となっている。

自社一貫生産を支える射出成型機（右）



本社内屋外観（左）



定番品の VIC サンドル（左）、同社が注力している女性向けのレインブーツ/シューズ（下）（写真は一例）



## 確かな品質でファンの多い VIC サンドルを製造

平成元年に生産を始めた、紳士用定番品『VIC サンドル』は、合成樹脂素材を 10 層以上重ねた丈夫な靴底に、いくつも空いた横穴（実用新案取得済）が特徴的な製品。この横穴が、クッション性向上による履き心地の良さ、靴底の軽量化、冷却速度の大幅向上による製造時間の短縮を同時に実現。他にも、サンダルの甲部と底部の接続部分をちぎれにくくする、濡れた床でも滑りにくくするなど、多くの創意工夫が散りばめられた同製品は、「履けば履くほど足になじむ」「長く履き続けていても硬くならず、しなやかさを保っている」と語るファンが多いことで知られる。

## 人気バンドのギタリストが愛用し話題に

特に、若者に人気の高いバンド「マキシマムザホルモン」のギター、マキシマムザ亮君氏が愛用していることから、同バンドのファンの間では VIC サンドルは広く知られる存在。同氏から同バンド専用仕様の VIC サンドルを作ってほしいとオファーがあり、現在鋭意製作中とのこと。

また、鬼龍院翔氏（紅白出場バンド「ゴールデンボンバー」ボーカル）も「前から買おうと思ってたんだがやっと買った！」と、自身のブログで写真とともにこのサンダルを紹介している。

## 医療現場で評価されるドクター/ナースサンダル

VIC サンドルをはじめとする同社の全ての製品は、試行錯誤の末たどり着いた配合比率による原材料の熔融から、射出成型、乾燥、塗装に至るまで、自社工場での一貫生産体制を取っている。

また同社では、東京の大手医療用器具卸業者向けのドクター/ナースサンダル（特注品）も手掛けている。高い衛生・安全基準が求められる医療現場での評価からも、抗菌衛生加工を施した同社のサンダルが、品質の確かな製品であることが窺える。

## 一つのヒット商品で満足せず次の一手を企画

同社は 5 年前、数千万円の費用をかけて CAD/CAM（コンピュータによる設計・製造装置）を導入した。サンダル業界としては異例ともいえる大型設備投資の背景には、一つのヒット商品に安住せず、新しい製品を企画し続けなければならないという西辺社長の強い思いがある。

現在も、ウェットスーツの素材を用い、通気性と防水性を両立させた新しいレインブーツの開発などに取り組んでいる。常に前進を続ける同社のものづくりへのこだわりは国にも高く評価されており、時の通産大臣に視察訪問を受けたこともある。

## 座右の銘は「努力無限」「身の丈を知る」

社業の傍ら、全日本ケミカルサンダル工業協同組合連合会および奈良県履物協同組合連合会の会長として、大阪で履物見本市を開催するなど、多方面で活躍する西辺社長の座右の銘は、「努力無限」「身の丈を知る」。

「今まで苦勞と思ったことは何もない」と常に前向きな西辺社長は、これからもものづくりに惜しみない努力を積み重ね、生み出す製品は多くの人々に安心と快適を届け続けるに違いない。

（太田宜志、吉村謙一）